

ヨーロッパ世界

ヨーロッパ主権国家体制の展開

11 次の文章を読み、あとの各問いに答えよ。

17世紀前半のヨーロッパは、気候が寒冷化したことなどから凶作が続き、経済的にも振るわなかった。また、反乱や戦争、革命などが起こった危機の時代であった。この時期の最大の出来事は、神聖ローマ帝国で戦われた三十年戦争であった。

そんな中、オランダは三十年戦争の影響をあまり受けることがなく、この17世紀にヨーロッパ第一の経済大国となり、文化的にも繁栄した。

フランスは、16世紀後半以降、朝の支配下にあった。17世紀中頃、貴族の反乱などで一時危機的な状況となったが克服され、ルイ14世の時代に絶対王政を実現した。また、当時海外進出を進めていたオランダやイギリスと対抗しながら、フランスも海外に進出した。

17世紀のイギリスでは、ステュアート朝の下で王権と議会の対立が続き、ピューリタン革命や名誉革命が起こった。革命後、イギリスでは、議会主権に基づく立憲王政が確立した。

オランダ・フランス・イギリスなどの西ヨーロッパ諸国と比べて、東ヨーロッパの国々では、近代化が遅れていた。しかし、18世紀に入ると、啓蒙思想の影響を受けながら、政治や社会などの近代化が進められた。この結果、プロイセン・オーストリア・ロシアは、西ヨーロッパの大国に対抗しうる国家となることができた。

問1 空欄 に該当する語句を、次の中から選び、符号で答えよ。

ア. テューダー イ. ブルボン ウ. ヴァロワ エ. プランタジネット

問2 下線部①に関して、次のA～Dの記述には、波線部が正しいものが二つある。正しいものの符号の組み合わせを、あとのア～カの中から選び、符号で答えよ。

A. 三十年戦争は、ベーメン（ボヘミア）の旧教徒がベーメン王国の新王に対して起こした反乱から始まった。

B. 新教国のデンマークやスウェーデンは、三十年戦争に参戦し、神聖ローマ帝国の新教勢力を支援した。

C. 旧教国のフランスは、国益を目指して三十年戦争に参戦し、旧教勢力を支援して成果をあげた。

D. 三十年戦争の講和条約であるウェストファリア条約によって、スイスとオランダの独立が国際的に承認された。

ア. AとB イ. AとC ウ. AとD エ. BとC オ. BとD

カ. CとD

問3 下線部②に関して、ヨーロッパ商業の中心地となった、オランダの首都名を記せ

問4 下線部③に関して、三十年戦争の現実を見て、『戦争と平和の法』を著して国際法の確立を主張した、オランダの法学者は誰か。次の中から選び、符号で答えよ。

ア. ホップズ イ. レンブラント ウ. スウィフト エ. グロティウス

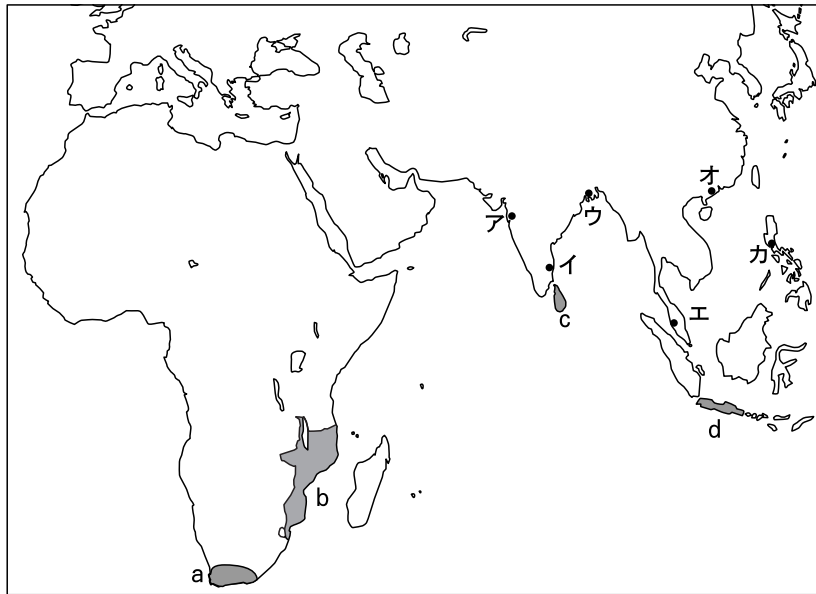
問5 下線部④に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. ルイ14世が幼少の頃は、宰相マザランによって、王権強化の政策が行われた。
- イ. ルイ14世は王権神授説の信奉者であり、広大なヴェルサイユ宮殿を完成させた。
- ウ. ルイ14世はスペイン継承戦争でオーストリアなどと戦い、大きな成果を得た。
- エ. ルイ14世はナントの勅令を廃止したが、このためフランスの経済は打撃を受けた。

問6 下線部⑤が建設したケープ植民地の位置を、下の略地図中の a～d から選び、符号で答えよ。

問7 下線部⑥がアジア進出の拠点としたカルカッタの位置を、下の略地図中のア～カから選び、符号で答えよ。

問8 下線部⑦がアジア進出の拠点としたポンディシェリの位置を、下の略地図中のア～カから選び、符号で答えよ。



問9 下線部⑧に関する次の事項を古い順に並べたとき、3番目となるものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 独立派による長老派に対する弾圧
- イ. ネーズビーの戦い
- ウ. 長期議会による国王への非難決議（大諫奏）
- エ. スコットランドの反乱

問10 下線部⑨の後、新国王となったウィリアム3世夫妻が制定した法典名を、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 審査法
- イ. 権利の章典
- ウ. 航海法
- エ. 大憲章

問11 下線部⑩に関して、啓蒙専制君主に該当しない君主名を、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. ヨーゼフ 2 世 イ. エカチェリーナ 2 世 ウ. ピョートル 1 世
エ. フリードリヒ 2 世

問12 下線部⑪に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. プロイセンのフリードリヒ 2 世による 2 度のオーストリアとの戦争に際し、イギリスはいずれの戦争でもプロイセンを支持した。
イ. オーストリアのマリア=テレジアは、プロイセンと戦うために、長い間対立していたフランスと和解し、提携した。
ウ. ロマノフ朝の皇帝であったピョートル 1 世は、ロシアの西欧化を進め、バルト海沿岸地域への進出をはかって、スウェーデンと戦った。
エ. 18 世紀当時、プロイセン・オーストリア・ロシアでは、農民は農奴的地位におかれていた。